

リーダーたちの本棚

Leaders as Reader

L JAグループの横糸を織る組織へ

【率いる】
Leading

奥野長衛さんの会長就任以降、改正農協法の成立、TPP交渉の大筋合意と、JAグループにとって大きな出来事が続いた。改正農協法では、約700に及ぶ地域農協の創意工夫を促すため、JA全中の権限縮小が盛り込まれた。JA全中は、生産者の所得拡大や地域活性化に向けた農協の自己改革を「指導」する立場から「サポート」する立場に変わる。

「私がかねてより、JAグループの役員は、組合員の「ために」ではなく、組合員と「ともに」あるべきだと言ってきました。JA全中に期待されているのは、情報共有の環境を作り、グループ間の横糸を織る総合調整機能です。その先頭に立ち、汗をかいていきたいと思っています」

TPPの大筋合意への対応については、対立ではなく対話によって政府関係者などに提案を行う方針だ。さらに、最重要課題の一つとして、東日本大震災の復興支援を挙げた。

「震災から4年半が経った今も農業を再開できずにいる生産者が多くいます。その一方で、新たなスタートを切っている産地もあります。例えば、イチゴの産地として知られる宮城県亶理町では、塩害で土耕栽培ができなくなった土地で、これまでとは異なる高床式の栽培方法を導入。甘みのあるおいしいイチゴの栽培・出荷を実現しています。JA全中は、全産地で復興が果たされるまで、共助の精神に基づき、被災地の目線に立った支援を継続していきます」

生産者のチャレンジを促す環境を整備

奥野会長は、各都道府県に地域農協の事業を支えるサポートセンターを置く考えを表明。消費者ニーズのくみあげやビジネスマッチングなど、農畜産業復活の足がかりとなる機能を強化することで、生産者の所得拡大を目指す。

「生産者は、「自分が作った作物や畜産物がいばばん」というプライドを持っています。私も生産者なので、その気持ちがよくわかる。ただ、これからの時代は、消費者のニーズにアンテナを張り、異業種と組んで新製品を開発するなど、プラスαのチャレンジが必要です。しかも、消費者のニーズは変化し、多様化している。お米にしても、ふっくらとしたお米、チャーハンに適したサラッとしたお米、いろいろなニーズがあります。それを的確に捉え、生産者にフィードバックする役割を果たしていけたらと思います」

過疎化が進む地域では、金融、医療、福祉など、JAの総合事業がなければ暮らしが立ち行かない現実もある。

「例えば、私の地元のJA伊勢では、20年近く前から高齢者の暮らしを支える取り組みを開始。今では訪問介護などを行う介護事業に発展しています。こうしたことへの国民的な理解や関心を高める努力も必要だと考えています」

組織運営においてはドラッカーの考えに共鳴し、「人は宝」を信条として「人材」ではなく「人財」という言葉を使うようにしている。「実は私は、我が強く、ものすごく短気(笑)。この二つを封印することが、リーダーとしての課題。現場の声に耳を傾けながら、農畜産業の発展を目指していきたい」

■朝日新聞社広告局ウェブサイトでは、奥野長衛さんが語るリーダー論を紹介しています。
<http://adv.asahi.com>



朝日新聞 広告 検索



おのちようす
全国農業協同組合中央会 会長

奥野長衛さん

1947年三重県生まれ。70年関西大学法学部中退。家業の野菜農家を継ぐ。JA伊勢組合長を経て2011年JA三重中央会会長。JA全中監事、理事を経て、今年8月から現職。

奥野長衛さんのおすすめ本棚

『徳川家康』全26巻 (講談社文庫) 山岡荘八著
三河・岡崎城での誕生から、今川家での人質生活、武田信玄や豊臣秀吉など有力大名との知の攻防を経て太平の世を築いた家康の75年の生涯をつづる。

『ジャッカルの日』 (角川文庫) フレデリック・フォーサイス著 篠原慎一訳
破産のイギリス人の殺し屋、ジャッカル。標的はシャルル・ド・ゴール。暗殺者を追うベル警視の捜査の行方は……。ドキュメント・スリラーの傑作。

『泉の城』 (新潮文庫) 司馬遼太郎著
信長、秀吉など権力者たちの陰で、壮絶な死闘を展開する2人の忍者の生きざまを通して、かげろうのごとき彼らの実像を写した長編。直木賞受賞作。

『資本論』全9巻 (岩波文庫) マルクス著 エンゲルス編 向坂逸郎訳
近代資本主義社会の経済的運動法則を徹底的に究明、人間社会に対する見解に変革をもたらした、社会主義を科学的軌道に乗せた不朽の名著。

『マネジメント エッセンシャル版 基本と原則』 (ダイヤモンド社) ピーター・F・ドラッカー著 上田博生・編訳
著者の大著『マネジメント』のエッセンスを凝縮。マネジメントが果たすべき使命と役割、取り組むべき仕事、中長期的に考えるべき戦略などについて解説。

海外の作家で好きなのは、フレデリック・フォーサイス。シャルル・ド・ゴール暗殺未遂事件を題材にした『ジャッカルの日』、イラク軍のクウェート侵襲を題材にした『神の差』など、スパイ活動や軍の暗躍を描いた作品群に魅了されました。ジャーナリスト出身の作家だけあって、強国のハイテク兵器や情報戦略の描写がリアルで、「こんな手口が本当にあるのだろうか、フォーサイスが書くのだからあるのかも」とかと思いつつながら読み、小説の内容と酷似した事件が後で起きて驚くこともありました。

家業も農協の組織経営もドラッカーが礎に
私は地元の伊勢で農業を営み、それと並行して、作った野菜を漬物に加工し、20年にわたって販売してきました。その間に人々の食生活は大きく変わり、それに合わせて漬物の味も変えていきました。昔はお茶漬けに合うような濃い味が好まれましたが、今の時代はサラッとした薄味が好まれます。消費者ニーズを農作にも反映し

例えば白菜は、一枚の葉が厚い品種から、一枚の葉が薄くカラフルな品種へと切り替えていきました。今、第1次産業である農林水産業が、第2次産業や第3次産業の領域に踏み込む「6次産業」の重要性が叫ばれています。私は、消費者のニーズからスタートするマーケティングの発想ができるかどうか、6次産業化の成功のカギだと考えています。そうした考えを持っていたのは、ドラッカーの影響が大きいと思います。著書の多くは学生時代に読みましたが、JA伊勢の組合長をしていた時に、「マネジメント エッセンシャル版」基本と原則」などを再読しました。組織運営において必要な考え方や感じたことから、特に感銘を受けたのは、「人は最大の資産」「組織の階層を少なくし、横の情報共有と相互理解を進めることで、個人の力が発揮しやすいようにする」というような、人に対する温かな視点です。JAの職員たちとドラッカーの思想を共有したいと思いついたことが、配るだけだけでなく、感想も聞いて回りました。中には迷惑そうなおもいましたが(笑)。JA全中の会長になった今も、ドラッカーの教えはいつも頭にあります。ドラッカーははじめ、若い頃の読書は、自分の原点です。(感)

R 若い頃の読書が自分の原点

【読む】
Reading

今年8月に全国農業協同組合中央会(JA全中)の会長に就任した奥野長衛さん。JA全中がピラミッドの頂点にある構造を変えると明言し、生産現場とともに歩む組織づくりに邁進している。10代の頃から変わらぬ趣味は読書。「本一冊には、著者の膨大な知識、経験が凝縮されています。それを数百円か数千円の書籍代で分けてもらえると、読書はもう一つの人生経験です」

学生時代に読みふけた戦国期の物語

私の左手には、腫瘍炎の後遺症がすかに残っています。若い頃から就寝前の読書習慣があり、毎晩のように仰向けの姿勢で本を持ち続けていたら、腫瘍炎になってしまったのです(笑)。それほど読書が好きでした。

高校時代に寝る間を惜しんで読んだのが、山岡荘八の『徳川家康』です。家康の人生は、長い人質生活、有力大名を相手にした数々の激戦、徳川家の存続と引き換えにした嫡男の切腹など、苦難の連続です。彼が、「一人の一生は重荷を負って遠き道を行くがごとし」という遺訓を残したゆえに、本作を通じて知りました。家康の幸いには、本多作左衛門など、忠義心が厚く有能な家臣に恵まれたことでしょうか。また、支えたいと思わせるリーダーでもあったと思います。本作を読むと、世に通じている「たみきおやじ」のイメージは持ちにくいですね。

同じく学生時代に、「泉の城」を読みました。伊賀忍者たちの壮絶な死闘を描いた司馬遼太郎の直木賞受賞作です。私は三重県出身なので、地元の名産物にも加わって、夢田信長をはじめとする時の権力者に翻弄され、不運にも圧殺された名もなき伊賀忍者たちの悲喜こももちは、真に迫るものがありました。本書をきっかけに司馬遼太郎のファンになり、ほとんどの作品を読んでいます。

20歳前後の頃は、世代的にマルクスブームがあつて、「資本論」を読まない者は愚か」という世の風潮でした。ご多分に漏れず私も読みましたが、どうにも難解で、概略をつかんだところで挫折。その数年後には「20代半ばになってもマルクスに心酔している者は愚か」という風向きに(笑)。とはいえ、資本家による富の独占や労働者搾取などの問題を提起したマルクスの精神は、時代が変わってもなお輝いていて、また、レーニンがマルクス理論の曲解を反省し、「市場原理を導入しながら、相互扶助の精神に基づく協同組合を成長させるべきだ」との考えに至ったという話を後年になって聞き、農協の意義について改めて確認した覚えがあります。



千代田区飯田橋3-3-1
○詳細は→<http://www.mikasashobo.co.jp>
○(株)ブックライナー(フリーダイヤル)0120-398989
(9:30~19:00)からもご購入いただけます。

三笠書房

最新刊
『江戸時代』
意外と住みたい? この町と、この時代!
「歴史ミステリー」倶楽部
ISBN978-4-8379-8374-3
●定価(本体590円+税)

『起こること』にはすべて意味がある
世界的ベストセラー 訳し下ろし
思い描くことが現実になる「引き寄せ」の法則
ジェームズ・アレン著
「引き寄せの法則」研究会 訳
ISBN978-4-8379-8766-9
●定価(本体590円+税)

『40歳からは食べ方を変えなさい!』
「食べ合わせ」で老化に勝つ!
15万部突破!
ISBN978-4-8379-2594-1
●定価(本体590円+税)
済陽高穂

実践レシピ

いつものパンがあなたを殺す
では、何を食べる?」
「炭水化物と糖質」カットでも簡単、おいしい!!

医学博士 デイビッド・パールマター
医学博士 白澤卓二 [訳]
料理研究家 ダニエラ・シガ [監修]
写真=中田孝子(スタジオダンク)

ISBN978-4-8379-5761-4
●定価(本体1300円+税)

アンチエイジング、ダイエット、健康づくりに……
8.5万部

成功者はみな、怒りを秘めている

里中李生
Rishon Stronka

45万部突破のベストセラーシリーズ
最新刊

人と衝突したとき、理不尽な目にあつたとき、不甲斐ない自分に気づいたとき、その怒りを、男として成長するためのチャンスにせよ。

著者

成功者はみな怒りを秘めている

ISBN978-4-8379-2613-9
●定価(本体1000円+税)

男の強さ、知性、魅力を磨く——32のルール

- 怒りは、エネルギーである
- 「黙っている」のが美德だなんて思わない
- ケンカを忘れた男に魅力なし
- 女にふられるのも、「負け」である
- 「ダメなものはダメ」と言えるか
- 男が絶対に守るべきプライドとは